

北斎かわらばん

すみだ北斎美術館ニュース

第16号

平成24年(2012年)3月発行



『すみだ』と『北斎』 — 北斎の描いた

『すみだ』⑦—

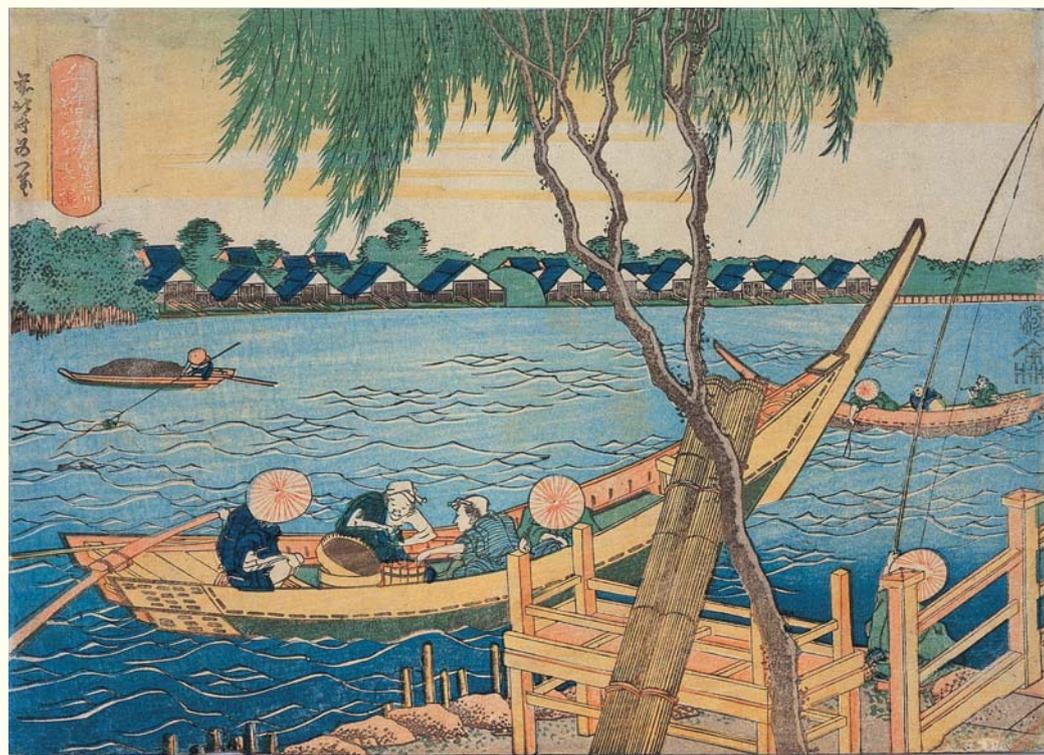
川で漁をする漁師の姿を描いた図です。「千絵の海」は「富嶽三十六景」と同じ北斎七十歳代の作品で、様々な水の姿と漁労の様子をテーマとした全十枚が知られています。

題名にある「宮戸川」は隅田川の別称です。対岸に並ぶ三角形の屋根は御船蔵で、現在の墨田区千歳一丁目から江東区新大橋一丁目までの隅田川沿いがありました。本図では十一棟しか描かれていませんが、実際には大小十四棟あり、幕府の御用船を格納していました。

手前は江戸の盛り場であった両国広小路（現中央区東日本橋）の南端にあたります。腰掛けが重ねて置かれ、巻かれた簾が立て掛けてありますが、小屋掛け

の茶屋のものでしょうか。右隅に描かれた橋は、薬研堀に架かっていた元柳橋です。画面を二分する柳は、江戸の初期には二本あつて夫婦柳と呼ばれていましたが、本図を描いた当

時には一本になっていました。北斎は『絵本隅田川兩岸一覽』の中でも、この柳を描いています。「長縄」は延縄のことで、一本の縄に間隔をおいて釣糸と鉤をつけた釣り道具で



「千絵の海 宮戸川長縄」

す。隅田川では、鯉、鱒、鰻、鱸、鮒、沙魚等がとれ、特に白魚や紫鯉、手長海老が美味しいと評判でした。紫鯉は墨堤の料理屋で提供する名物で、洗いや鯉濃汁として江戸っ子に親しまれました。

手前の船では長縄から魚を外して桶に入れるようなしぐさをしています。右奥の船では網を引く人や、煙管をふかす人がいます。橋のたもとでは座って釣りをしています。隅田川で漁に携わる人々を描いた、日常のどかな風景です。

【発行】
墨田区区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
(墨田区役所1階)
☎ 03-5608-6115

【編集協力】
財 墨田区文化振興財団
北斎担当

ふれあい活力1207

すみだ



すみだ北斎美術館

「葛飾北斎コーナー」のご紹介

墨田区に生まれた北斎の作品を紹介するため、すみだりバーサイドホール一階（墨田区役所二階）に「葛飾北斎コーナー」を設け、作品の複製画や写真パネル等を展示しています。

現在「すみだ川を東京ス

カイツリーまで歩こう！」両

国橋から押上まで」をテーマとした展示を行っていますので、お気軽にお立ち寄りください。

【開設時間】年末年始を除く毎日午前八時三十分～午後七時

【料金】無料



墨田区では、区内でものづくりに携わる方々の商品開発の一助となるように、すみだ北斎美術館（平成二十七年開館予定）に収蔵する北斎作品の画像を商用目的でご利用いただく事業を行っています。

今回、紹介する「すみだ発! 北斎オリジナルグッズ」は、北斎作品の画像をプリントした布製品です。

ショルダーバッグは、「富嶽

三十六景」の「凱風快晴」と「神奈川沖浪裏」を両側に一点ずつ大きくプリントしたデザインです。暖

簾は、『絵本隅田川 兩岸一覽』の「両国納涼 一の橋弁天」と「無縁の日中」を左右に並び、両国橋を一体的にプリントしたすみだらしい一品です。

【商品に関する問い合わせ】

白石布帛製品株式会社

☎03・3622・5484

【画像利用に関する問い合わせ】

（財）墨田区文化振興財団

☎03・3829・4122



北斎関連出版物のご案内

『葛飾北斎 すみだが生んだ世界の画人』

北斎の生涯とその作品、すみだ」と北斎との関わりを知っていただくための入門書で、代表的な作品を多く掲載し、年代を追って紹介しています。



墨田区内の「北斎ゆかりの地」や、浮世絵版画の製作過程を簡単に説明した豆知識なども掲載しています。

『墨田区所蔵

ピーター・モースコレクション 北斎図録』

墨田区が所蔵するピーター・モースコレクションの中心をなす北斎作品を掲載した図録で、五〇〇点を超える作品を全てカラーで紹介しています。

モース氏の論文、作品解説や詳細なデータも掲載しています。

このほか、北斎とその門人に関する、世界で唯一の総合的な専門研究誌『北斎研究』を年二回発行しています。

【出版物に関する問い合わせ】

（財）墨田区文化振興財団

☎03・3829・4122

